

学校自己評価

学校自己評価とは、戸田中央看護専門学校が、組織的・継続的な教育活動の改善を行い、学生・卒業生、関係者との連携協力による特色ある学校づくりを推進するために行う評価です。学校評価は教育機関としての機能を包括的に判定する学校関係者評価と、教職員による学校運営全般、卒業生による教育活動等、在校生による授業アンケートの評価からなっています。平成 30 年度より実施されています。

令和 7 年度の取り組みと評価

<令和 7 年度 学校自己評価結果と前年度の比較>

表 1 大項目評価（卒業生・在校生）

評価基準 5 大いに当てはまる 4 当てはまる 3 どちらでもない 2 当てはまらない 1 まったく当てはまらない

	No	I	II	III	IV	V	VI	平均
	項目	教育理念 目標	学校運営	教育活動	学修成果	学生支援	教育環境	
卒業生	R6	4.28		4.38	4.78	4.5	4.54	4.46
	R7	3.22		3.93	3.47	3.97	4.22	3.90
在校生	R4	4.22		3.81	3.93	4.13	3.89	3.99
	R5	3.66		3.66	3.72	3.96	3.98	3.80
	R6	3.75		3.80	3.78	3.97	3.96	3.86
	R7	4.04		4.05	4.04	4.02	4.16	4.07

令和 7 年度における学校自己評価は、在校生評価においては全項目で改善が見られ、教育活動および教育環境の質向上が確認された。一方、卒業生評価では全体平均が 4.46 から 3.90 へ低下しており、特に「教育理念・教育目標」「学修成果」において大きな減少があった。教育成果の定着状況および卒業後評価の要因分析が課題である。

表 2 大項目評価（教職員）

評価基準 5 大いに当てはまる 4 当てはまる 3 どちらでもない 2 当てはまらない 1 まったく当てはまらない

No	I	II	III	IV	V
項目	教育理念 目標	学校運営	教育活動	学修成果	学生支援
R5	3.7	3.4	3.7	3.4	3.7
R6	3.7	3.3	3.7	3.6	3.7
R7	3.8	3.7	3.7	3.7	3.8

No	VI	VII	VIII	IX	X	平均
項目	教育環境	学生の受け 入れ募集	財務	法令等の遵 守	社会貢献地 域貢献	
R5	3.6	3.6	3.1	4.0	3.9	3.6
R6	3.7	3.6	2.8	3.9	4.4	3.7
R7	3.8	3.7	4.1	4.0	4.4	3.8

グーグルフォームを使用し 5 段階リッカート尺度にて調査した。

R7 は、学校運営・財務・学修成果など複数の分野で改善が見られた。特に「財務」の大幅な改善と、「社会貢献・地域貢献」の高評価は学校の社会的信頼性の向上につながっていると考える。一方で、「教育活動」は横ばいであるため、今後は授業改善や教育の質の保証に向けて、教員一人ひとりが工夫、改善を重ねていく必要あると考える。

表3 在校生アンケート結果 3学年比較 (R6年度)

	1年生	2年生	3年生	平均
教育理念、教育目標	3.9	3.85	3.66	3.75
授業・授業評価	3.79	3.86	3.65	3.74
実習	3.95	3.75	3.66	3.8
国家試験対策	3.74	3.81	3.78	3.78
学校行事	3.97	3.77	3.75	3.84
学生支援	4.12	4.01	3.78	3.97
教育環境	4.12	4.04	3.85	3.96
学校生活全般	4.15	4.17	4.03	4.11

1年生	回答率	94.4%
2年生	回答率	91.5%
3年生	回答率	97.5%

表4 在校生アンケート結果 3学年比較 (R7年度)

	1年生	2年生	3年生	平均
教育理念、教育目標	4.10	3.98	4.04	4.04
授業・授業評価	4.04	3.99	4.10	4.05
実習	3.99	4.00	4.14	4.05
国家試験対策	3.97	3.94	4.20	4.04
学校行事	3.99	3.99	4.14	4.04
学生支援	4.00	3.99	4.06	4.02
教育環境	4.12	4.17	4.18	4.16
学校生活全般	4.05	4.01	4.15	4.07

1年生	回答率	83%
2年生	回答率	95.8%
3年生	回答率	87.7%

令和7年度在校生アンケート結果においては、全8項目の平均値が4.0以上で推移しており、全体として高水準の評価が得られた。特に「教育環境(4.16)」「学校生活全般(4.07)」「授業・授業評価(4.05)」等において高評価となっており、教育環境及び学習支援体制の充実が学生に受け止められていたと考える。また、「実習(4.05)」および「国家試験対策(4.04)」についても全学年を通じて一定水準以上の評価が得られている。令和6年度の平均値(3.75~4.11)と比較すると、令和7年度においては全体的に評価の上昇が認められ、特に「教育理念・教育目標(3.75→4.04)」「授業・授業評価(3.74→4.05)」「実習(3.80→4.05)」「国家試験対策(3.78→4.04)」において改善が確認された。

表5 授業評価

	R6	R7
学生自身の取組み	4.45	4.53
授業の進め方	4.38	4.42
授業の工夫	4.37	4.40
担当教員について	4.42	4.45
授業の成果	4.39	4.43
総合評価	4.38	4.41

総合評価については、R6年度4.38からR7年度4.41へと上昇しており、全体として授業に対する満足度は改善傾向を示している。また、全項目が4.4前後であることから、授業の質に関する評価は一定の水準に達していると考えられる。

表 6 成績評価

	R5	R6	R7
A 評価	62 人	76 人	100 人
B 評価	48 人	37 人	17 人
C 評価	1 人	3 人	1 人
D 評価	0 人	0 人	0 人

年間を通した各科目の成績
(卒業時)

A 評価は 80 点以上、B 評価は 70 点～80 点未満、C 評価は 60 点～70 点未満、D 評価は 60 点以下

B～C 層の底上げが課題であると考える。

表 7-1 学年目標 (3 年次) 自己評価結果

	3 年次目標	平均	
礼	様々な状況にある人を思いやり、尊重しあい、相互作用の中で共に成長する力を身に着けている。	4.20	4.20
	看護実践における道徳的・倫理的な責務を自覚した判断と姿勢を身に着けている	4.20	
智	物事を様々な視点をもって探求し、看護の質向上を図る基本的な能力を身に着けている。	4.20	4.20
技	健康の状態やその変化に応じた臨床判断を行う基礎的な能力を身に着けている	4.00	4.09
	地域共生社会における看護師の役割及び他職種の役割を理解し、多職種と連携・協働する基本的な能力を身に着けている。	4.10	

表 7-2 学年目標 (2 年次) 自己評価結果

	2 年次目標	平均	
礼	様々な状況にある人を思いやり、尊重しあい、相互作用の中で共に成長する力を身に着けている。	4.17	4.12
	看護実践における道徳的・倫理的な責務を自覚した判断と姿勢を身に着けている	4.05	
智	物事を様々な視点をもって探求し、看護の質向上を図る基本的な能力を身に着けている。	3.70	3.70
技	健康の状態やその変化に応じた臨床判断を行う基礎的な能力を身に着けている	4.05	3.86
	地域共生社会における看護師の役割及び他職種の役割を理解し、多職種と連携・協働する基本的な能力を身に着けている。	3.73	

表 7-3 学年目標 (1 年次) 自己評価結果

	1 年次目標	平均	
礼	様々な状況にある人を思いやり、尊重しあい、相互作用の中で共に成長する力を身に着けている。	3.73	3.75
	看護実践における道徳的・倫理的な責務を自覚した判断と姿勢を身に着けている	3.76	
智	物事を様々な視点をもって探求し、看護の質向上を図る基本的な能力を身に着けている。	3.65	3.65
技	健康の状態やその変化に応じた臨床判断を行う基礎的な能力を身に着けている	3.77	3.67
	地域共生社会における看護師の役割及び他職種の役割を理解し、多職種と連携・協働する基本的な能力を身に着けている。	3.60	

学年進行に伴い「礼・智・技」の各能力は段階的に向上しており、特に 3 年次においてはすべての領域で 4.0 以上の評価が得られていることから、教育目標は概ね達成されていると評価できる。
2 年次における「智」の伸びが相対的に弱く、思考力育成の強化が今後の課題とされる。

表8 保護者会実施状況

	令和5年度		令和6年度		令和7年度	
	参加人数	時期	時期	参加人数	時期	参加人数
1年生	4月	82名	4月	108名	4月	118名
	12月	動画配信				
2年生	3月	動画配信	3月		3月	動画配信
3年生	1月	動画配信	1月	動画配信	12月	動画配信

1年生の保護者会については多くの方の参加をいただきました。

動画配信は、多くの保護者が視聴され好評をいただきました。

表9 図書室利用状況 利用者数（名）

	1年生	2年生	3年生	教員	学外者	学生総数	総数（名）
令和2年度	1,105	1,535	5,300	1,112	53	7,940	9,105
令和3年度	1,054	2,384	7,500	1,713	38	10,938	12,689
令和4年度	1,261	4,041	4,994	1,518	68	10,296	11,882
令和5年度	949	4,194	3,960	1,415	36	9,103	9,258
令和6年度	423	1,685	4,340	1,236	35	6,448	7,719
令和7年度	908	968	3,400	1,033	62	5,276	6,371

図書室利用は、令和3年度をピークに、右肩下がりです約半減レベルまで減少している。要因としてデジタル教科書の使用、学習スタイルの変化（タブレット使用）等が考えられる。図書室を新しい使われ方に変化させていくための工夫が必要となると考える。

表10 ボランティア活動への参加述べ人数

ボランティア活動	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年
	人数（名）	人数（名）	人数（名）	人数（名）
グリーンビレッジ安行 秋祭り	中止	12名	6名	8名
グリーンビレッジ蕨 秋祭り	中止	中止	6名	8名
グリーンビレッジ朝霞台 夏祭り				7名
とだ優和の杜 秋祭り	中止	12名	12名	12名
ピンクリボン活動	117名	115名	121名	113名
戸田中央総合病院災害訓練	中止	中止	30名	34名
都立光が丘公園災害時共助訓練	中止	60名	18名	31名
トルコシリア地震募金活動	14名			
さいたまマラソン			40名	降雪中止
練馬ファミリー祭り			10名	10名
さいたまクリテリウム				14名
	135名	201名	243名	237名

ピンクリボン活動は毎年100名以上と、継続的に活動できている。災害訓練への参加は、再開後に参加が増えている。地域イベントへの参加も徐々に拡大している。一方、天候による中止もみられ、環境に左右されやすい側面もあるが、地域連携と社会貢献の機会は広がっている。

表 11 研修への参加延べ人数（教員）

区 分	令和 4 年	令和 5 年	令和 6 年	令和 7 年
	人数（名）	人数（名）	人数（名）	人数（名）
授業設計			1 名	2 名
シミュレーション	1 名		1 名	
教育実践	7 名	11 名	12 名	17 名
学会		5 名	2 名	
教育評価		1 名		
看護実践	4 名	2 名		4 名
管理			5 名	
カリキュラム				
国家試験対策	1 名	5 名	13 名	1 名
総数（複数回参加有）	13 名	24 名	34 名	24 名

対面での研修会の開催増加に伴い、教員の研修参加延べ人数は令和 4 年の 13 名から令和 6 年には 34 名へと増加し、参加機会の拡大が示されている。特に教育実践分野は継続的に増加しており、実務に直結する研修への関心の高さがうかがえる。令和 7 年は 24 名とやや減少しており、継続的な参加促進が課題である。ただし、校内での伝達講習の機会は増えていることを付け加えたい。